

常照

第827号

ひろさちや氏を偲んで

今年四月中旬の新聞に、ひろさちやさんのご訃報の記事が載っていました。

ひろさんは大変北海道とご縁のあった方で、特に小樽には何度もご講演に来られています。毎年春に開催される佛教会主催の花まつり記念講演会の講師として来道されていきますので、皆様の中にも、ご講演をお聞きになった方もいらっしゃると思います。いつも解り

やすいお話で大変勉強になった思い出があります。

また、小樽佛教会発行の教化広報誌「あ」にも、毎年ご寄稿を頂いておりましたので、ご覧になった方も多いと思います。それほど北海道、とくに小樽とご縁の深かった方です。心より合掌、お念仏申しあげます。

ここで少しご本人を紹介させて頂きますが、「ひろさちや」はペンネームで、「ひろ」はギリシャ語の「愛する」で、「さちや」はサンスクリット語の「真理」に由来するそうです。昭和十一年生まれで、東京大学文学部印度哲学科を卒業され、同大学の博士課程を修了されています。令和四年四月七日に八十六歳で逝去されました。肩書きは「日本の宗教評論家」で、自称「仏教原理主義者」と称

していました。生涯で七百冊以上の著書が出版されています。ご自身は浄土宗の信徒であります。が、「道元を生きる」、「空海を生きる」、「法然を生きる」など、多岐にわたる仏教宗派の書物を書いておられます。

当然、真宗の開祖である「親鸞を生きる」という作品もあります。また、親鸞聖人のお弟子にあたる唯円さんが書かれた「歎異抄」についての書物も多数出版しています。私も数冊の書籍を持っていますが、どれも大変解りやすい本になっています。

記憶に深く残るエピソードが一つあります。それは、十数年まえに自宅のマンションから一億数千万円の現金が盗まれ、その事が事件となり、テレビのニュースになりました。事件現場から番組に出

たひろさんは、まるでひとごとのようにインタビュに答えていました。盗まれた現金は金庫に入っていたのではなく、無造作に部屋に置かれていたそうです。普通の人であれば一億円以上の被害にあったのですから、犯人に対する憎しみや、盗難にあつた悔しさをもつて会見するのでしょうか、ひろさんは、淡々とした口調で受け答えをしていました。まるでお金に執着がないかのように話をしていました。

ひろさんの生き方がそこに表現されているような気がします。

ひろさんは、「なぜ人間には宗教が必要なのか」と云うご著書のなかで、次のように述べておられます。

「日本人は宗教音痴です。本物の宗教がいかなるものであるか

が、さっぱりわかっていないので、私は宗教教育を学校でやれ、と主張しているのではありませぬ。が、しかし、学校で教えられていることは、徹底して「損か得かの計算」だけです。それではない、宗教教育とは何でしょう。

それは、損をしたってかまわなぬ、と考えることの出来る人間を育てる事です」と書かれています。今、旧統一教会の問題がテレビなどで取りざたされていますが、それこそ宗教団体を逸脱した行為にすぎないと感じます。

宗教学史の金字塔

〈歎異抄〉

ひろさんは、〈歎異抄〉（たんに

しよう）について、次のように書いておられます。「親鸞聖人自身の著作である教行信証を読むべきであると主張される学者もいますが、私はそうは思いません。なぜなら、この〈歎異抄〉は、わが国宗教学の白眉であります。たとえばキリスト教の新約聖書だって、イエス・キリストの著作ではありません。イエスの弟子たちが、イエスの没後に、イエスから、教わったことを書き記したものです。孔子の論語もそうですし、お釈迦様の教えだって、弟子達によって書き記されたものです。むしろ弟子たちによって書き留められたもののほうが、すばらしい宗教書になるのではないかと思えます。〈歎異抄〉は、わが国の宗教書の最高傑作であります。現代日本人にこれほどよく読まれ、感動

をあたえ、その生き方に大きな影響を及ぼした書物は他にありません。まさしく、〈歎異抄〉は、日本宗教学史上の金字塔であります。」

このように、宗教、宗派全般についてご自身の著書を残された方が、〈歎異抄〉を金字塔と評価しておられます。

私達はもつと自信をもって、〈歎異抄〉を真宗の拠り所として、頼りにしてよいのではないかと思うのです。

「善人なほもつて往生をどぐ

いはんや悪人をや」

歎異抄第三条

十二月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 十二月七日(水)・十一日(日)

大阪教区島上西組 常見寺

講師 村田 朝雅 師

○後期 十二月十三日(火)・十四日(水)

北海道教区後志組 本念寺

講師 桐木 眞英 師

十二月十五日(木)・十六日(金)

北海道教区後志組 富貴寺

講師 安野 義一 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～

午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。

どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (011-34) 2211・0744番
FAX (011-34) 2291・0808番
テレホン法話 2271・1616番